巻　頭　言

名古屋大学多元数理科学研究科
杉本　充

この巻頭言を執筆している 2020 年 7 月初旬現在，全世界は引き続き新型コロナウイルスの蔓延という近来稀に見る大厄災の真っただ中にある．日本においても感染拡大が一旦は収束したかに見えていたのだが，ここにきて状況が少し怪しくなり始めているのは気がかりである．執筆依頼を受けた 3 月中旬頃は日本においても少しずつ感染が拡大し始めていた時期ではあったが，当時はまだまだ楽観的な見方が支配的であったように思う．私が勤務する名古屋大学においても，2 月末までは大学入試を含む年度末の諸事を（今の感覚ではかなり密の状態で）普通に執り行っており，その後の事態の急変を俄かには受け入れられない教職員・学生も多かったのではないだろうか．卒業式・入学式は中止となり，いつもは学生で溢れかえるはずの地下鉄・名古屋大学駅の閑散としたホームの幾本もの柱ごとに，卒業生・入学生への激励・歓迎メッセージが虚しく埋め尽くされていたのは大変悲しい光景であったが，そこで初めて事態の異常さを実感したのは私だけではあるまい．その後始まった新学期においても，オンライン講義・会議とこれまでに経験することのなかった非日常が始まり，その後もごく短期間のうちに次々と変化していく状況に一喜一憂するといったことが続いたまま，現在に至っている有様である．一方，日本数学会においても 2020 年度年会を含む様々な学術的会合の中止の報が相次いでいるが，未だ再開の兆しは見えてこない．熊本大での開催が予定されていた 2020 年度秋季総合分科会も，ついに現地開催が断念されオンライン開催となることが決定されたところである．この号が発行される頃には，少しは事態が改善されていることを祈りたい．

さて話は変わるが，私は 2013 年から 2019 年までの 6 年間にわたり，学術委員会の活動に運営委員として携わってきた．特に最後の 2 年間は委員長としてその調整役をも担ってきたが，他の運営委員の先生方にも支えられ無事務めあげることができた．内規により委員長退任後もしばらくオブザーバとして学術委員会にとどまっていたが，このたび晴れて学術委員会からは無罪放免の身となった．そもそも学術委員会とは，「日本数学会の学術的な活動の重要事項について，理事会への提言，理事会からの諮問に対する答申，および提言答申事項に関する実施支援を行う」ことを目的として設立された日本数学会の委員会である．現在の主要な活動は

・日本数学会 季期研究所（MSJ-SI＝MSJ- Seasonal Institute）の公募・運営
・年会及び秋季総合分科会における総合講演者候補の理事会への推薦

の二つである．学術委員会に関する詳細は学術委員会ＨＰにも掲載されているので，そちらもご覧いただければと思う．

ここでは上述の季期研究所（MSJ-SI）についての話題を紹介したい．MSJ-SI とは

2008 年度に開始された日本数学会主催の国際研究集会のことであり，1993 年度から 2006 年度まで計 15 回開催された日本数学会国際研究集会（MSJ-IRI＝MSJ-International Research Institute）の後継企画として．若手研究者や周辺分野の研究者向けのサーベイ，アジアの国々との交流の充実などを目的としてリニューアルされたものである．その設立経緯は，数学通信第１６巻第１号の当時の学術委員長である古田幹雄氏による記事「MSJ-IRI，MSJ-RW から MSJ-SI へ―ICM90 以降―」において詳しくまとめられている．私もまだ駆け出しの頃に，MSJ-SI の前身である MSJ-IRI に参加した経験がある．当時は科研費使用ルールの制約も多く，大規模な国際研究集会が国内で開催されるのは非常に稀な時代であったこともあり多くの参加者が詰めかけていたのだが，これをきっかけに国内の関連研究が著しく活性化され，若手研究者の育成も促されるなど大変有意義な研究集会であったことを記憶している．またそのような多大な恩恵をうけた若手研究者の中からその後の MSJ-SI の組織委員長が誕生したことも，日本数学会としてこのような企画を継続していくことの重要性を物語っている．

MSJ-SI はそのテーマの公募が年に一度行われ，採択されたテーマによる国際集会の開催は，応募者の提案した組織委員会によって行われることになっている．これに対して日本数学会からは助成金が組織委員会に提供され，報告集は日本数学会の刊行物である Advanced Studies in Pure Mathematics (ASPM)から出版されることになっている．また，大韓数学会と台湾数学会からそれぞれ 3 名ずつの大学院生・若手研究者の派遣を受け入れ，MSJ-SI での講演への出席および理事長・組織委員会との懇親会への参加などを通じて交流を図っている．これまでに開催された MSJ-SI は 2008 年度の "Probabilistic Approach to Geometry"（於京都大）から 2019 年度の "Stochastic Analysis, Random Fields and Integrable Probability"（於九州大）までの計 12 回に上っている．実は，私が学術委員長に就任した際，その直前に締め切られた MSJ-SI のテーマ公募にはなんと一件の応募も無く，いきなり緊急事態からのスタートとなってしまった．まずは公募の締め切りを半年延長することにした他，理事会の方からは助成金の増額（200 万円から 500 万円へ）という心強い援護射撃をしていただけることになった．その他，フライヤーを作成して数学通信に折り込むなどの広報にも努めた結果，幸いにも 1 件の強力な応募を得ることができた．応募数はその後も少ないまま推移し最近はやや持ち直してきているようではあるが，MSJ-SI の企画そのものの再検討が必要となる時期が近づきつつあるのかもしれない．

なお，MSJ-SI は 2020 年度の第 13 回および 2021 年度の第 14 回までの開催テーマが既に決定されており，組織委員会による開催準備が進められている．さらに 2022 年度開催の第 15 回についてのテーマ公募も締め切られており，学術委員会において現在審議中となっている．新型コロナウイルスによる影響が懸念されるところであるが，今はこれらが無事開催されることを心から願うばかりである．